

事件 file003 ダイニング・コードの残響

登場人物

●被害者

Y：2年生。軽音部。ギター・ボーカル・作詞作曲担当。

あなたの友人で部活仲間。顔が良く女子人気が高い反面、女癖が悪い。

●容疑者

X：あなた。2年生。軽音部。ベース担当。

工藤彰吾くどうしょうご：1年生。演劇部。脚本担当。被害者とは中学時代から先輩後輩の間柄で、軽音部にも幾度か作詞の協力をしている。

音無双葉おとなしふたば：2年生。演劇部。役者。合宿の立案者。被害者とは学園祭で知り合い、以来関係は良好。

井伊頼大い いよりひろ：3年生。演劇部。大道具担当。被害者との直接的な関わりは学園祭以降だが、以前にも妹の美空を通じて幾度か接点があった。

井伊美空い いみそら：2年生。軽音部。ドラム担当。被害者の恋人で、頼大の妹。被害者とは1年の春から交際関係が続けているが、その頃から彼の浮気癖についてよく揉めていた。

事件概要

12月×日(土)。学園祭での共同ステージ以降、一部メンバーと交流が続いていた軽音部と演劇部。この日は演劇部員である音無双葉の立案により、山中にあるコテージを借り切ったのスキー合宿が行われていた。

参加メンバーは軽音部のX、Y、井伊美空と、演劇部の工藤彰吾、音無双葉、井伊頼大の6名。コテージは広く、1人につき1部屋客室があてがわれていた。



2F

同日 12 時 35 分、コテージ到着。

夕方から大雪の予報が出ていたため、スキーの予定は翌日に遅らせてこの日はコテージで過ごすことに。

13 時 00 分、道中で買った食材を用いてバーベキューを開始。

準備や調理は X 含め主に男性陣が担当し、その最中 Y は彰吾の恋愛相談に半ばからかうように乗っていた。その間双葉と美空も何やら話し合っていた様子。

14 時 30 分、自由時間。

彰吾と頼大は脚本の執筆とその協力のためコテージ内へと戻り、残りの 4 名で雪遊びを行う。その最中、Y が双葉へとちょっかいを出し、それに美空が怒って喧嘩になりかけたところを X と双葉で仲裁する一幕があった。

16 時 30 分。日が陰ってきたため野外での活動を中断し、4 人揃ってコテージ内へと戻る。

双葉と美空は夕食の準備を始め、彰吾と頼大はまだ 2 階の客室で作業を行っている様子だったため、X と Y は女性 2 人を手伝いつつ談笑やゲームを行った。

17 時 10 分、雪が降り始める。

17 時 30 分。夕食のシチューが完成し、X は 2 階の 2 人を呼びに行く。

2 人は彰吾の部屋で作業をしており、真面目な雰囲気を出していたものの、呼びかけにはすぐに応じて 3 人は 1 階へ。6 人揃って食事を始める。

18 時 25 分。食事が終わり、頼大と美空が後片付けを行う。

その最中何かを話していた様子だったが、内容までは聞き取れなかった。残りの 4 人でゲームを行う。

19時05分。後片付けをしていた2人が加わり、6人でゲーム。

主にボードゲームで盛り上がるも、このとき美空は時折浮かない表情をしていた。

20時10分。雪の勢いが激しくなり、近くの温泉に行く予定は取り止めてコテージ内のシャワールームを1人ずつ交代で使用することに。

双葉、美空、Y、彰吾、頼大、Xの順。

その間、残りのメンバーでゲームを続けていたものの、Yはシャワー後自分の客室へ作曲作業、彰吾と頼大もそれぞれシャワーが終わってから彰吾の部屋での脚本作業へと向かうため、頼大がシャワーへ向かったタイミングでお開きに。双葉、美空、Xもそれぞれの客室へ。

この際、最初にYがシャワーへと向かう直前に双葉が「明日も朝早いんだから遅くても0時過ぎには寝るんだよ」と声を掛けていた。

23時30分。Xが自分の部屋へと戻ったタイミングにはもはや外の天候は大きく荒れており、雪が大きな音を立てて窓に打ち付けられる音が部屋に響いていた。

0時00分。X、就寝。

翌6時15分。身体を激しく揺さぶられてXが目を覚ますと、目前では美空が緊迫した様子でYの名を口にしており、そのただならぬ様子からXはすぐさまYの部屋に。

6時17分。Yの部屋にはすでに全員が集まっており、中に入ると部屋の中央には胸部をナイフで刺され、仰向けに倒れているYの姿が。脈拍は無く、すでに死亡していた。

死因はおそらく複数の刺し傷による失血死。他殺と見て間違いない。

すでに警察と救急には通報済みだが、山中という立地と昨晚の吹雪により到着まで数時間かかるとのこと。

殺された時間帯はYがシャワーを済ませて自室へと戻っていった昨晚22時00分から美

空が遺体を発見した6時12分までの間。

昨晚における外の天候は決して人が出歩けるような状態にはなく、また降り積もった雪に足跡なども見当たらなかったことから外部からの侵入は不可能。つまり、X含めてこの場にいる5人が殺害の容疑者となる。

凶器のナイフは一見して元からコテージに用意されている物のようで、誰にでも持ち出すことが可能だった。

また、それぞれの客室の扉には鍵が付いておらず、誰にでも入退室が可能な状況。

各客室の壁は決して厚くはなかったものの、外の吹雪も相まって仮にXが客室で目覚めている最中の犯行だったとしても、よほど大きな物音でも立てない限り気づくことはなかったように思われる。

事件発覚当時、美空は双葉と共に朝食を準備しており、男性陣を起こすため順番に客室へと訪れている最中だった。

全員にアリバイがなく、犯人への手がかりも無いように思えたが、Yが作曲用に持ち込んでいたノートパソコンにはロックがかかっておらず、音楽制作用ソフトウェアが起動されたままになっていた。

そこには「作曲用」とは別に名称未設定の編集画面が開かれており、わずか5秒ほどのみ音が入力されていた。

ノートパソコンや置かれていたデスクに血の付いた手で触れたような血痕が付着していたことから、息絶える直前のYが遺した唯一の手掛かりであると推察。

被害者の遺したダイイングメッセージを読み解き、真犯人を暴け。

ダイイングメッセージ

- 音声ファイル「名称未設定」を参照

容疑者の特徴と事件当日の行動

●工藤彰吾

- ・身体が小さく、大人しい性格。
- ・部活の次の公演に用いる脚本に行き詰っていたところ先輩の頼大に誘われ、今回の合宿に参加した。
- ・どちらかといえばインドア派で、スキーの経験はあるものの脚本執筆が合宿参加の主目的だった。
- ・引っ込み思案な性格と異性にモテないことがコンプレックスで、中学時代からそのことをYにイジられ続けている。

- ・事件発覚前夜は22時30分にシャワーから自室へと戻り、それからは就寝まで部屋から出ることなく執筆を続けていたと証言。時間帯は22時30分~0時10分。
- ・23時00分ごろからシャワー上がりの頼大が合流し、0時05分ごろまで脚本の相談に乗ってもらっていた。
- ・この日は非常に疲れており、すぐに寝入ってしまったため記憶は定かではないが、「眠りに落ちる直前に廊下から複数の足音が聞こえた気がする」と証言。
- ・翌朝5時40分ごろに自然と目が覚め、顔を洗いに1階へ降りた後、自室で脚本の執筆を再開。それからは6時11分ごろに美空から声がかかるまで部屋にいたものの、争っているような物音などは聞かなかったとのこと。
- ・再び1階に降りると、頼大はテーブルの席に着いており、双葉が食事の配膳をしている最中だった。特に言葉を交わすこともないまま背後から美空が階段を駆け下りてきて、事件のことを知った。

●音無双葉

- ・スタイルが良く、明るく気さくな性格。
- ・部活だけでなくクラスにおいても中心人物的な存在であり、今回の合宿の立案者。その目的は「Yがスキーしたいって言ってて、じゃあみんな遊びに行こうと思ったから」。

- ・アウトドア派ではあるもののスキーは今回が初めてとなる予定だった。多くいる演劇部員の中でも頼大に声を掛けたのは、親交の深さのみならず彼にスキーの心得があり、当日に教えてもらおうつもりだったから。
- ・Yとは学園祭で知り合い、すぐに意気投合。事件発覚の前日においても一見仲は良さそうだった。
- ・事件発覚前夜は22時30分まで美空、頼大、Xと共にゲームをし、そこから自室へと戻ってスマートフォンを触った後就寝。時刻は23時30分。その際部屋の外から誰かが階段を上がって自室の前を通り過ぎていく足音を聞いたと証言。
- ・翌朝5時30分、美空に起こされる形で起床。1階へと降り、2人で朝食の準備を始める。
- ・5時42分、2階から彰吾が顔を洗いに下りてくるところを目撃。準備の手伝いを申し出られるも遠慮する形で拒否。「なら脚本の続きをしてくる」と2階へと戻っていったとのこと。
- ・6時09分。調理が終わり、男性陣の招集を美空に任せて配膳を進める。
- ・6時11分、頼大が2階から下りてくるところを目撃。そのままテーブルに着き、特に会話はなかったものの挨拶に対する返答はあまり元気がない様子だったと証言。
- ・6時13分、彰吾が2階から下りてくる。脚本の進捗を訊こうとしたところでその後ろから緊迫した様子の美空が駆け下りてきて、3人と共に2階へ。事件発覚を知る。

●井伊頼大

- ・大柄な身体で面倒見の良い性格。
- ・彰吾が次の脚本で行き詰まり悩んでいたところで双葉から合宿の話を持ち掛けられ、息抜きでもすれば新しいインスピレーションが生まれると思い彼に声を掛けた。
- ・根からのアウトドア派で、スキー・スノーボード双方共に経験あり。
- ・学園祭以前から妹の美空を通じてYとは接点があったものの、その多くは自宅へ遊びに来たYと軽く挨拶をする程度で直接話すようになったのは学園祭以降。その後も交流は特に多くはなかった。

- ・事件発覚前夜は23時00分にシャワーを終え、そのまま彰吾の部屋へ脚本制作の手伝いをしに行っていたと証言。
- ・0時05分。手伝いを切り上げて自室へと戻る途中で2階のトイレからYが出てくる現場に遭遇。挨拶もほどほどにそのまま自室へ。
- ・すぐに就寝する予定だったが、吹雪の音が気になりしばらく寝付けなかったという。その間誰かによる廊下の出入りや大きな騒ぎなどは聞こえなかったと証言。寝入ることができたのは遅くとも2時00分過ぎ。
- ・翌朝6時09分、美空に起こされ朝食をとりに1階へ。
- ・6時10分。1階へと降り、双葉に挨拶のみを交わしてテーブルに着く。
- ・6時13分。彰吾の後ろから慌てて美空が下りてきて共に2階へ。事件発覚を知る。美空にXもすぐに起こしてくるよう伝え、警察と救急に通報。

●井伊美空

- ・小柄な体格で活発な性格。
- ・部活動の際にYから合宿の話を持ち掛けられ、Xと共に二つ返事で承諾。
- ・アウトドア派で、スキーよりもスノーボードの方が得意。
- ・Yとは入学直後に部活で出会ってすぐに恋仲となるものの、彼の女癖の悪さに日頃から手を焼いていた。
- ・事件発覚前夜は22時30分まで双葉、頼大、Xと共にゲームをし、頼大がシャワーへと向かうのをきっかけに2階の自室へ。その後すぐに就寝したと証言。
- ・翌朝5時20分起床。一度顔を洗いに1階へ降りてから再び2階へと戻り、双葉を起こして朝食の準備を始める。
- ・5時42分。予定よりも早く1階へと降りてきた彰吾が双葉と話しているところを目撃。その後彰吾は2階へ戻り、双葉と共に調理を再開。
- ・6時09分。調理が終わり、残りの準備を双葉に任せて男性陣を起こすため2階へ。
- ・同時刻、頼大を起こす。疲れが取れていないのか、いつもより元気がない様子だったと証言。

- ・6時11分、彰吾の部屋に赴くとすでに起きていた彼は脚本作業の最中だった。軽く声を掛けるに留め、Yの部屋へ。
- ・6時12分、Yの部屋で遺体を発見する。一瞬立ち尽くすも、すぐに彰吾の後を追う形で1階の面々を呼びに向かった。
- ・6時14分、頼大に言われてXを呼びに行く。

事件のポイントとヒント

- ・全員の証言を信じるならば、最後に生きているYに会ったのは頼大でその時刻は0時05分。
- ・同様に証言を信じた場合、吹雪の客室という状況下において、壁を挟んだ隣の部屋の物音は聞こえなくとも、扉越しに人が通り過ぎていく音を聞き取ることは可能。
- ・ダイニングメッセージに遺されていた音は、一般に「ツー・ファイブ(II-V)」と呼ばれる有名なコード進行(曲を構成する和音の組み合わせ)を逆にしたもの。(つまり「ファイブ・ツー(V-II)」)
- ・そのことに気づいていたのはXの他に、様子を見る限りでは美空のみだった。
- ・また、本来デスク上に置いてあったはずのノートパソコンは遺体発見時、床で横向きに倒れていた。